

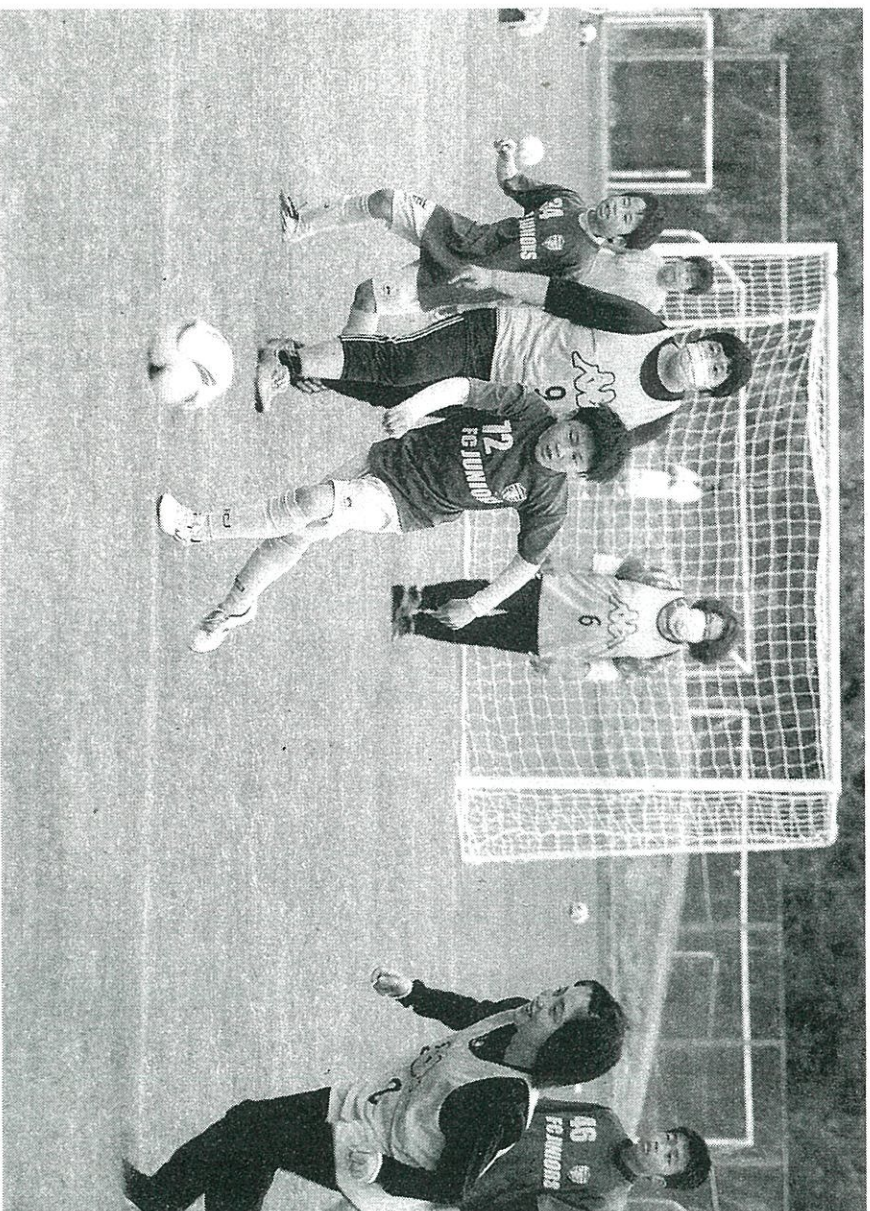
精神障害者ら多様な人参加

心つなぐプレイヤー

ブルーギルフットボール 中津で大会

【中津】精神障害者ら多様な人が参加できるよう一部ルールを改正したフットサル「フットボール(SF)」を楽しむ大会が今月、中津市三光成恒の市三光総合運動公園で開催された。「県入フットボールフタエタ」と銘打ち5回目。2019年5月の初回に比べ、チーム数が増えて参加も知的や聴覚障害者らへと広がり、多様性がより高まっている。

大会名の「フタリ」は障害のある人もない人も互いに支え合い、地域で生き生きと暮らせる社会を目指す理念「フタライゼーション」に由来。同市の診療



多様なチームが集まった大会。さまざまな年代の参加者がフットボールを楽しんだ。中津市の市三光総合運動公園

施設、寺町クリニック(太田喜久子院長)の呼び掛けルを基本とし、人数を通常(5人制)より増やしたり

5回目、増えるチーム数

試合時間を短くするという工夫をしている。新型コロナウイルスの影響で2年ぶりに市外からの参加も募った今回は、市内外の企業やサッカー関係者が運営に協力。九州各地から精神、知的、聴覚の障害者や薬物依存者など健常者でつくる15チーム、計200人超が集まった。

小学生から70代までさまざまな年代の参加者は笑顔でプレイを楽しみ、チームの垣根を越えて互いに声援や拍手を送り合った。寺町クリニックチームの太田美津子さん(47)は福岡県豊前市には「広い場所で運動でき、気分がすっきりした」。

自らも出場した太田院長(73)は「参加の輪が広がっている。SFは精神障害者が感情を出し、体力つくりをできるなど大きなメリットがある。スポーツを通じてフタライゼーションが進むと嬉しい」と話した。

(吉田美佳)